

### 第3回 大田市学校のあり方に関する基本方針検討委員会での意見（概要）

教育部総務課

#### 「6 その実現に向けて」について

- ・「中学校は、より多くの生徒の関わりの中で、主体性、社会性等を身に付けるため、統合・再編などを進めます。」について、主体性、社会性等はどの程度の生徒数がなければ身に付かないというデータがあるのか？
- ・生徒達は小規模校であっても、工夫を凝らすことで、主体性や社会性を身に付けており、統合・再編という形をとる必要はないのではないか。
- ・大規模校で多人数に適応できない生徒もおり、そうした場合、小規模校への通学を認めるといったことも考えられるし、小規模校も地域との連携の中で、特色（魅力）を出していくことで、存続させることができるのではないかと？
- ・前回会議の資料にあったように、希望する部活がないため、校区外就学で部活のある学校へ通う生徒の割合が非常に高くなっている。保護者の立場からすると、統合・再編し、一定の生徒数があれば、様々な部活動の選択肢が選べるなど、自分の子どもの可能性を広げることができるため、そうしたことも記述してはどうか？

f f

- ・「中学校は、より多くの生徒の関わりの中で主体性、社会性等を身に付けるため、統合・再編などを進めます。」とあるが、より多くの生徒と関わらないと主体性・社会性が身に付かないのかという疑問がわいてくる。
- ・中学校は、統合・再編などを進めた場合、学校が地域からなくなることは、地域の衰退につながるのではないかと。
- ・「統合・再編」という、小から大へという発想をやめて、大から小への人の流れを作り、人口を今の地域で少しでも維持していく、その上で、魅力ある教育、その地域ならではの教育を継続していくと考えてみてはどうか。

【案】大規模校と隣接する小規模校との学校区境界を弾力的にし、大規模校区から小規模校区へ通学できるようにする。